

## 開催報告

# 繊維学会 年次大会・ジオテキスタイル研究会見学会

太陽工業（株）技術本部 榎 尾 孝 之

### 1. 繊維学会 年次大会

社団法人繊維学会主催の繊維学会年次大会は我々が生活を営む上で必要不可欠な衣料分野や紙パルプに用いられる繊維素材についての研究のほか、生物親和性（生分解性）を有する環境対応素材の研究、接着・界面・コロイドの分野など各方面での繊維用途についての研究発表と討議がなされている。

今年度の年次大会は5月22～24日の3日間にわたり東京・大田区産業プラザにおいて開催された。IGSに関わりの深いジオテキスタイルの分野では、

- |                                |         |      |
|--------------------------------|---------|------|
| (1) 補強土工法に用いたジオテキスタイルの長期耐久性調査  | 太陽工業（株） | 石田正利 |
| (2) ニードルパンチ不織布における針の繊維把持能力と貫通力 | 岐阜大学    | 立松寛之 |
| (3) アラミド繊維系不織布の熱圧縮疲労特性         | 岐阜大学    | 深谷賢志 |
| (4) 河川護岸根固め工法用袋材               | 前田工織（株） | 南本政司 |
| (5) 海洋処分場不織布保護マットの保護効果の評価      | 大阪府産技研  | 松本 哲 |

の研究発表と討議がなされた。

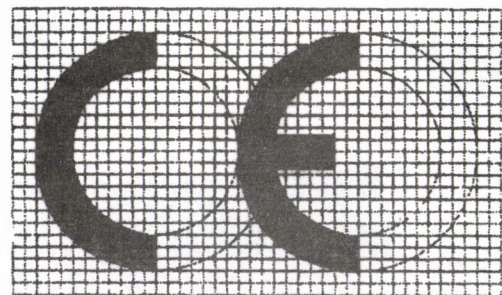
また、IGS日本支部 巻内副支部長による「ジオシンセティックス規格標準化の最近の動向」についての講演があった。国際規格、地域規格、国家規格など規格の体系についての紹介とジオシンセティックス分野での欧州；CENと米国；ASTMの整合化への努力とISOへの移行における日本の立場と今後のあり方のほか、CEマーキング制度の重要性等についての報告があった。また、地盤工学会内で準備している品質規格ガイドライン策定作業の紹介がなされた。

繊維素材の分野においてもジオシンセティックス分野と同様の国際的な規格標準化作業が進められている模様で、分野を超えた意見の交流と討議が行われた。

### 2. ジオテキスタイル研究会見学会

繊維学会の中にはジオテキスタイル研究会があり、東大阪短期大学 木田徳郎委員長のもとでジオテキスタイルに関連する技術情報の交換が行なわれている。研究会活動の一環として補強土工法の現場見学会が5月30日に神奈川県横浜市で開催された。見学の対象となった現場は、国道246号線の拡幅工事現場で剛壁面補強土擁壁（RRR工法）の施工現場であり、繊維学会に参画する産、官、学のメンバー22名の参加者で見学した。RRR工法協会の田村幸彦氏による工法説明の後、工事現場に移動し現場説明を受けた。

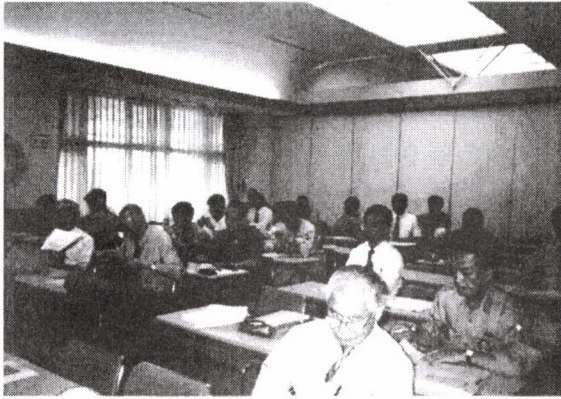
ジオテキスタイルを使う現場を初めて見学する方も見受けられ、現場では活発な質疑が交わ



図—1 CEマーク

されたとともに、繊維素材の建設用途への展開を肌で触れることができた。

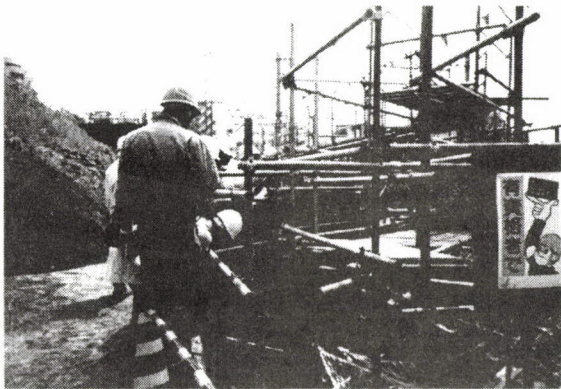
本見学会の趣旨に快諾をいただき現場説明をおこなっていただいた、東急建設（株）市ヶ尾作業所 松下所長ならびに関係者の皆様に感謝いたします。



写真—1 工法説明



写真—2 現場説明



写真—3 現場説明